

N 1 8 JR東海はど～れダ った？

2010. 3. 12 JR東海労東二運分会 答えは B社でした

みなさん 読んでみましたか？ 某雑誌の特集を

ただ一人の会長は我がJR東海の会長でした。他の6社にも代表取締役会長がいる会社がありました。念のため。

さておき、ナポレオン、孔子に学ぶ「人を動かす極意」について、文中で会長は「人がついてくる大きな理由は、この人についていけば必ず戦いに勝てるという信頼感なんです」と言い、そして例えばとしてナポレオンをあげています。ただこれは、企業活動の「統率力」の話だそうです。

会長は自らが、会長としての企業活動とその統率力を誇っているように感じますが、私たち社員には「企業活動」も、その「統率力」も関わりがありません。なぜなら。私たちの職場で、あの運転士や車掌についていけば必ず戦いに勝てるなどと考える人はいないからです。強いて言えば、あの管理者や先輩についていけば少し特をするかな？ 損はしない、という程度だと思います。しかし、これは統率力によるものではないし信頼感も生まれません。

職場で誰に勝とうというのでしょうか。全く意味がなく同僚や先輩への「厚い信頼」は勝ち負けではありません。あくまでも「企業活動」と「統率力」で、私たちに対しては人事考課＝規律と社員管理＝忠誠、仕事をさせる＝命令と仕事をさせられる＝服従の、良いか悪いかの評価として現れるのです。

ところでナポレオンと言えば、ロシア遠征が象徴的です。遠征開始時の兵力は60万人と言われていましたが、大敗し最後は5千人で帰還したとも言われています。リニアを大きな目標としているJR東海にダブらなければと思います。リニアは私たち社員の生死の問題です。「国盗り」から学ぶものなど何もありません。戦争で幸せになった国も人もいません。

いる社員は「ついていけば絶対に勝てる、と信頼される人」で、いない社員は「人が作ったルールでしか思考できない人」だそうです。これも私たちの職場にはなじみません。私たちは「人が作ったルール」通りに動かされているのです。あくまでもルールを作る側の勝手な言い分なのです。

「命令し 勝つことこそが 企業なり」 C D 頑爺